

若 樹

杉並区立東田中学校

「自分の可能性を信じる」「飾るのではなく自分を磨け」

校長 鳥居 利至

令和7年度も残りわずかとなってきました。本校では3月18日(水)に第79回卒業式を挙行し97名の生徒が巣立っていきました。今年の卒業生も3年間で大きく成長し、様々な場面で活躍することで東田中学校を力強く牽引してくれました。卒業式では、静と動のコントラストが素晴らしい、とても感動的な式になりました。これからも卒業生の未来が明るく幸せなものになるよう願っています。以下卒業式での校長式辞の一部を抜粋して掲載します。

校長式辞 (一部抜粋)

新しいことをやり遂げられる人は、「自分の可能性を信じる」ことができる人だと私は思います。新しいことや困難なことにぶつかったときに、今もっている力で、「できる、できない」を判断してしまっただけでは、大きく一步を踏み出すことはできません。

「人間の能力は無限です」、いっけん無理だと思える事でも、あきらめずに情熱を傾けて努力することで私たちの能力は、いくらでも伸びていくのです。

人間が100mを9秒台で走ることは達成困難と考えられていましたが、1968年アメリカのジム・ハインズが9秒9を記録するとその後多くの選手が9秒台を出し、もちろん誰でもできることではありませんが、さらに記録は更新し続けています。また、空を飛ぶということは、昔は不可能なことでした。しかし1903年にライト兄弟が初めて飛行機による有人動力飛行に成功すると、その後、100年もたたないうちに、飛行機で移動するということが当たり前になっています。さらに、人類は宇宙にまで飛び出せるようになりました。つまり人間の能力は無限であり、自分の力を信じて行えば、どんな不可能に思えることでも達成できるということです。

卒業生の皆さんは、中学校三年間の様々な体験を通して、自分の可能性を十分に発揮し、全員が大きな自信をつかんだことと思います。今後の自分にも無限の可能性があるのでということを感じて、さらに希望に満ちた人生を送って欲しいと思います。

二つ目の話は、「飾るのではなく自分を磨け」です。

まだまだ未完成な若者に大切なのは、外面を飾ることではなく、自分の内面にある宝物を懸命に磨けということです。私たちはいくら外側を綺麗に飾っても、中身は変わりません。私たちは両親から多くの能力や力をもって生まれてきています。

その自分の中にある能力や力を見つけ、懸命に磨き訓練することで、さらに自分が輝いてくるのです。自分は、他の人になることはできません。しかし、このように自分を磨けば、新たな個性を備えることができます。人間には、無限の可能性があります。生涯このように皆さん自身で自分を大切に育て続けてほしいのです。

本物の輝きや本当の美しさは、物で身を飾る事ではなく、その人自身なのです。その人の心の美しさであり品格であり、そして磨き続けた個性だということです。自分の中にある宝を見つけ、そして磨いていってください。磨き続ければ、美しく輝いていくのです。また、充実した毎日となっていきます。

「送る言葉」

春風、校門の桜から路傍のたんぽぽまで、私たちを取り囲む花々が開花を待ちわびてつばみを膨らませる季節になりました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

委員会、部活動、そして学校行事のたび、中心となって輝いている先輩方の姿が今も鮮明に目に焼き付いています。運動会ではどんな種目も全力で楽しんでいる姿が印象的でした。今年度は雨天により小規模開催となりましたが、三年間の集大成として心一つにすべてを出し切る皆さんの姿を見て、その強い絆に惚れました。合唱コンクールのあの日、ホールに満ちた混声四部合唱の響きが今でも忘れられません。最上級生にしか出ずことのできない美しい音色の中、声に乗って伝わってくる皆さんの想いに胸が突き動かされました。思えば、先輩方はいつも私たちを助けてくださいました。慣れない日々を翻弄される私たちを、一歩先からそっと導いてくださったこと、何度その優しさに救われたことか、感謝してもきれません。そんな先輩方が本日をもってこの東田中学校を卒業し、私たち二年生がとうとう最高学年となります。皆さんのような存在になれるだろうかという不安があります。でも、皆さんが我武者羅に守り抜いてくださったこの美しい学校を、さらに豊かな色で描いてみせられるよう誠心誠意努めさせていただきます。先輩方とこの学校生活を過ごすことができて本当に幸せでした。この先、自ら切り開いた新天地で、先輩方はきっとその個性を生かして輝いていくことと思います。私たちはいつでも応援しています。最後になりましたが、先輩方が歩みゆくこれからの未来に、どうか幸多からんことを願い、送る言葉とさせていただきます。

在校生代表

「別れの言葉」

私たちが毎日、友達と挨拶を交わっていた正門は、今日も変わらず、私たちを迎え入れてくれます。三年前、慣れない制服に袖を通し、その門をくぐった私たち。そして今、成長した私たちは、この体育館に集い、あの日と同じ制服を身にまといながら、新たな未来へと歩みだそうとしています。不安と期待で胸を膨らませた入学式。東田中の一員となつて最初の一年間で、私たちは新しい友達、先生に囲まれながら、沢山のことを経験しました。初めての宿泊行事であったフレンドシップスクールは、クラスメイトと打ち解けあう時間になりました。勉強も部活も、すべてが新鮮で、あつという間の一年間でした。二年生になると、私たちは、「東田中のエンジン」として、後輩を引っ張り、先輩を支える役割を担うようになりました。スキー教室では、クラスを超えて共通の体験をすることで、学年としての連帯感がうまれました。そして、迎えた最高学年。運動会や合唱コンクール

では、練習中にうまくいかないこともありました。例えば、私のクラスでは、自由曲の歌い出しの部分がなかなかよい響きにならず、何度も何度もやり直しをしました。細かいところまでこだわり、みんなで見解を出し合い、合唱をより良くすることだけに集中した、あの一体感。妥協せず、課題を解決するために、クラス全員が力を合わせることで、絆が深まっていきました。修学旅行で訪れた京都・奈良では、ただ楽しむだけでなく、各自が三年生として、自主自立の精神をもって行動できました。これらの行事も、今振り返れば全てが特別で、かけがえない思い出です。三学年は、一人一人が将来について考える一年間でもありました。自分の力で進路に対して真摯に向き合い、思い悩んだ時間は、これからの人生において、自分なりに未来を切り開いていく力になるはずです。

部活動では、全員で一つの目標に向かって力を合わせることに難しさや、素晴らしい学びがありました。地道な努力を重ねても、成果が出なくて、悔し涙を流すこともありました。仲間と対立し、どうすればいいのかと悩んだ時期もありました。しかし、最後の大会やコンクールなどで、互いの成長を喜び合えたとき、確かな自信を得ることができました。さて、僕たちが充実した学校生活を送れたのは、先生方のおかげです。授業や行事、委員会、部活動など、様々な場面で本当にお世話になりました。先生方の言葉には、僕たち一人一人のことを見てくれてるんだという安心感がありました。叱られた時もありましたが、僕たちの将来を考えてくれていることが伝わってきました。担任の先生方は、クラスが楽しく、良い雰囲気になるように、いつでも温かく見守ってくれました。こんなにも素晴らしい先生方に教わることでできて、心から感謝しています。

在校生の皆さん、これまで行事や委員会、部活動などを通じて多くの時間を共に過ごすことができました。私たちが困ったときには支えてくれて、嬉しかったです。ありがとうございます。四月からは、最高学年になり、大きな壁にぶつかるともあるかもしれません。しかし、諦めずに頑張ってください。皆さんならきっと乗り越えられると信じています。そして、私たちのことをいつでもそばで見守り、支えてくださった保護者の皆様、心から感謝しています。苦しい時も、楽しい時もかわらず応援してくださいました。すれ違い、ぶつかってしまったこともありましたが、それでもずっと変わらず隣にいて、たくさん助けてくださいました。そのことが、私たちが勇気づけてくれます。だから今、胸を張って立っています。いつもありがとうございます。そして、これからもよろしくお願います。最後に、共に過ごし、成長してきた三年生のみんな。このメンバーだったからこそ中学校生活が大切な思い出となりました。今まで本当にありがとう。これから先、進む道は違うけれど、この三年間で学んだ皆さんのことは、必ず、私たちを支えてくれるはず。寂しさはありますが、また笑顔で再会できる日を楽しみに、前に進んでいきたいです。そして、たくさんの方に支えられて中学校を卒業できることのありがたみを感じながら、私たちの気持ちを最大限乗せて「証」を歌います。

卒業生代表